

令和5年度 静岡デザイン専門学校

学校自己評価・学校関係者評価

評価報告書

1. 教育理念・教育目標

〈 教育理念 〉

社会に自立するために必要な人間力と高い専門技術を有する人材を育成し、地域社会に貢献する。

〈 教育目標 〉

教育基本法に則り、学校教育法に従い、服飾並びにデザイン業務に関する知識・技能を授けるとともに一般教養を高め、有能な職業人、社会人を育成することを目的とする。

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

〈 目標・計画 〉 ※令和5年度 実績報告書参照

1. 専門学校グループの目指す”県下 No.1 の圧倒的な教育力”につながる、本校の「教育の質のさらなる向上」を図る。
2. 安定した経営のために、目標定員必達と学生の質向上の両立に向けた募集活動を実践する。
3. 柔軟でスピード感を持った、御幸町移転を実現・維持出来る強い組織へと成長する。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

評価方法： 4（適切）→ 3（ほぼ適切）→ 2（やや不適切）→ 1（不適切）

※各項目に対しての成果と課題については、通し番号①～で記載している。

(1) 教育理念・目標

評価欄

1-1	教育理念並びに教育目標が明確に示されているか	4
1-2	学校における職業教育の特色は示されているか	4
1-3	社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
1-4	理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
1-5	各学科の教育目標、育成人材像は、業界のニーズに向けて方向づけられているか	4
学校自己評価 平均		4

成果と課題

①②教育理念並びに教育目標は入学時に配布される学生のしおりに記載されており、入学時のオリエンテーションで入学生全員に周知している。また、学校ホームページ（以降は学校HP）の学校情報でも公開している。

⇒公開情報 | 静岡デザイン専門学校 (sdc.ac.jp)

・教室には教育理念をスローガン化した『好きな道でプロになるために身につける5つの力 ①デザイン力②ビジネス力③社会人基礎力④テクノロジー活用力⑤社会貢献力⇒未来を生き抜く力』についての掲示を行い学生・教職員の目に触れる環境となっており、必要な時に想起することができるようにしている。

③教育課程編成委員会など外部の意見を取り入れながら、全学科のカリキュラムの見直しを行い、新カリキュラムをスタートさせた。新しい取り組みとしては、共通選択科目の充実を図ったことで、従来は他学科のカリキュラムだった科目が用意されており、自分が所属する学科の知識に加え、学生自身が身につけたいスキルを70種類から選ぶことができるようになった。

④⑤学校・学科のディプロマポリシー（卒業認定/専門士授与の方針）並びに、学校・学科のカリキュラムポリシーを学校HPの学校情報内で公開しており、教育目標、育成人材の方向性を示している。

<u>今後の改善方策</u> <ul style="list-style-type: none"> ・この状況を維持・継続するとともに、さらに徹底を図っていく。 ・定期的に点検し、時代に合っているかを見定めていくことが必要。 	
<u>学校関係者 評価コメント</u> <ul style="list-style-type: none"> ・常に教育理念に従って社会情報を先取りし、学生自身にとって静岡デザイン専門学校に在籍している時間が人生にとって重要な時間であると認識し、社会人、職業人として社会に愛される人材の育成に努めていると思います。 ・社会に出てすぐにプロとして一人前になることのむずかしさ、それと共にプロを目指す心、希望を持ち続けることの楽しさもしっかりと身につくようにご指導いただけると良いと思います。 ・教育目標に向かって育成していると思います。 ・共通選択科目の充実が学生の学習意欲の向上に役立っていると思われます。引き続き充実に取り組んでいただきたいと思います。 ・学科の枠を越えて70種の科目から選べる等、新しい取り組みも見られる。デザインを広くとらえる事が出来、良い試みと思います。 ・ニーズに即した対応がしっかりと実施できている。 ・理念・目標は単年度で変更するようなものではないと思っており、継続した取組を期待したいと思います。 	
学校関係者評価平均	4

(2) 教育活動

2-1	シラバスが作成され学生に配布されているか	4
2-2	教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
2-3	学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
2-4	キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
2-5	関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
2-6	授業評価の実施・評価体制はあるか	4
2-7	成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
2-8	資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
2-9	人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4
2-10	関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
2-11	関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
2-12	目標に到達しない学生に対し適切なフォローがなされているか	4
学校自己評価 平均		4
<u>成果と課題</u>		

- ①①文部科学省が推進する職業実践専門課程に全学科が認定されており、それに伴う教育課程編成委員会を年2回開催している。この委員会で企業委員からの有益な意見をカリキュラムに反映し、シラバスを改訂した。学生には学校HP上で公開している。
- ②学習到達レベルについては、学校HP/学校情報/ディプロマポリシーにて示されている。学習時間は学校HP/学校情報の2. 各学科の教育にて示されている。
- ③学科ごとカリキュラムポリシーに沿って体系化され運用がなされている。
- ④全学科に実務経験のある講師による授業を実施している（学校HP/実務経験のある教員等による授業科目の一覧参照）。
- ⑤全学科に産学連携をカリキュラムに取り入れており、外部と協同での授業を実施している。
- ⑥期末ごと授業アンケートを実施し、フィードバックしている。
- ⑦成績評価・単位認定基準はシラバス並びに成績評価の客観的な指標で明確にしている（学校HP/シラバス、成績評価の客観的な指標参照）。
- ⑧学科ごと業界で必要とされる資格をセレクトし、その資格を取得するための授業を設定し実施している。
- ⑨教員採用時には実績・人間性を確認した上で採用している。また、OJT教育によって教育の質を維持する取り組みを行っている。
- ⑩校内研修を定期的実施し教育スキルの維持に努めている。また、専門性スキルを維持するために外部研修予算を用意し、それぞれに見合った研修に参加している。
- ⑫正規授業以外に補講などを実施して底上げを行っている。

今後の改善方策

- ・教育課程編成委員会を開催するにあたり、より多くの外部意見を取り入れるためには委員の方を定期的に入れ替える必要がある。前年は委員の一部更新とメンバー増員を行った結果、大変貴重なご意見を伺うことができた。引き続きメンバーの更新を図りたい。
- ・上位層や、やる気のある学生をフォローするため、チャレンジプログラム制度をカリキュラムに取り入れたが、学科ごと運用の仕方にばらつきがあるため、運用方法を再検討する。さらに学生にとって有益なものについては、自主的な取り組みを促したり、部活の中で取り組んだりするなど後押しを引き続き行う。
- ・学生自身が成長を自覚できるように「成長の見える化」を図る。
- ・様々な実績のアーカイブ化へ取り組み、広報しやすい環境を作る。

学校関係者 評価コメント

- ・資格をとって就職につなげていると思います。
- ・上位者だけでなく、下位・中位層のやる気を引き出す取り組みもより充実させてゆく必要があると思われます。
- ・優秀な学生には更に高い目標が持てる様な仕組みがあつて良い。又、学生の成長の見える化への取り組みから落ちこぼれる学生が出ない様フォローがされている事がわかった。
- ・専門学校としての基本的な教育活動がしっかりできていることに加え、活動の質を高めるための努力、対応もきめ細かく実施できている。
- ・教育には教員の育成と学生のやる気を引き出すとりくみが大切だと考える。 その意味では人材育成とやる気のある学生へのフォローなど制度が整っている。
- ・産学連携のカリキュラムを実施することで在学中に社会と関りが持てている。資格取得のための勉強はスキルアップの大切さも学べるので良いと思います。

(3) 教育成果

3-1	就職率の向上が図られているか	4
3-2	資格取得率の向上が図られているか	4
3-3	退学率の低減が図られているか	4
3-4	卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
学校自己評価 平均		4

成果と課題

- ① 就職率の向上を図るため、全教職員が一丸となって指導にあたった。関連分野就職率目標 90%を掲げ、結果は 90.7%(前年 91.9%)となった。全体の内定率は 99.0%(前年 98.4%)と例年を上回る結果となった。
- ② 資格取得に対しては、各学科が計画的に授業を構成し指導にあっている。ほぼ前年並みの取得率を確保した。
- ③ 退学率低減のために、個別面談を行い早期に学生が抱えている問題を解決するよう努めた。また、AIを導入した分析により退学者予備軍を事前に把握し個別に対応した。年度末の退学率は 4.0%となり目標の 4.5%以内を達成できた。前々年度は 5.7%、前年度 7.3%。
- ④ 新聞や SNS 等による情報発信を注視しながら、卒業生の活動を確認している。また、本校の施設であるデザインファーム等を利用して個展などを開催する卒業生のサポートを行った。

今後の改善方策

- ・企業に対して多様なアプローチをするため、令和 2 年度からデザイン系学科において、ポートフォリオ制作を紙媒体で見せるだけでなく、Web 上でも公開し、学生のデジタルスキルをあげるとともに、企業に PR できる環境を整えた。
- ・オンライン就活も増えてきているため、PC 前でも面接がスムーズにできるよう学生指導を行う必要がある。
- ・各業界で今後必要とされる人物像も変化している。それらを把握しカリキュラムに反映させるため、企業との接点を増やし、情報収集を行う。
- ・学生の就職に対する意識が多様化しており、個々の学生の特性に合わせた、よりきめ細かな就職指導を行う。
- ・インターンシップを利活用し、早期内定に結びつけるとともに、教員の企業訪問による情報収集の場としての役割も強化していく。
- ・退学率軽減のために、早期面談の実施、学校への適応感を高める、明確な目的意識の醸成、目標の抽象度を上げる、周囲とのコミュニケーションを密にする、授業内や課題制作での相互コミュニケーションを活発にする、外部のオンライン学習動画を活用する、など様々な取り組みを実施する。

学校関係者 評価コメント

- ・就職した後のフォローがされていると思います。
- ・退学率をさらに下げするための取り組みを充実させて 1 人でも多く卒業できるようにしていただければと思います。
- ・退学率低減のための取り組みや、企業との密な連携も就職率向上につながっていると思われる。
- ・数値化しながら目標を共有できていることが結果につながっているのかと思います。様々な工夫をすることでコミュニケーションを深めることで成果も上がっている。
- ・就職、退学ともに数値が目標達成しており、取り組みの成果が出ている状態。さらなる改善に向けた施策も評価できる。
- ・1 人 1 人の学生に寄り添い学校の考え方、意見に耳を傾けている。

・教員の人間力を高め、学生達との信頼関係を早目に築く努力をすることが退学者を減らすことにつながると思う。

学校関係者評価平均

4

(4) 学生支援

4-1	進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
4-2	学生相談に関する体制は整備されているか	4
4-3	学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
4-4	学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
4-5	保護者と適切に連携しているか	4
4-6	卒業生への支援体制はあるか	4
4-7	高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4
4-8	新たな求人開拓の努力はしているか	4
4-9	課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
4-10	社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4

学校自己評価 平均

4

成果と課題

- ① 常設の進路指導室を設置し、学生の就職相談には常時対応している。令和2年度から専任職員を一人追加し、二人体制で進路活動支援・求人開拓を行った。校内企業ガイダンスを年1回実施し、姉妹校の開催するガイダンスについても学生に伝達・サポートしている。
- ② 学生面談は入学生に対しては、入学後早期に面談を実施している。スクールカウンセラーは、毎週金曜に来校し学生からのカウンセリング希望に対応している。また、スクールカウンセラーからの情報提供紙として『メンタルヘルス』を毎月発行し、学生及び教職員に配布している。入学前にはスクールカウンセラーのセミナー映像配信も実施し、入学への不安軽減に努めた。
- ③ 学生の経済的側面に対する支援として日本学生支援機構の奨学金制度・国の教育ローン等の案内を学生・保護者に対して紹介している。学校法人で取組んでいる学費サポートプランについても書面及び口頭で説明している。
- ④ 職員室横に保健室を設置しており、保健室管理担当者が日常の体調不良に対応している。また、コロナ禍での現在は、毎朝健康セルフチェックを行うことを日課にし、異常があった場合は学級担任が初期対応する体制を敷いている。
- ⑤ 保護者とは、後援会総会や各種イベント開催の案内を通して学校の状況を知らせている。また、積極的にマス媒体に露出することにより、保護者に学校の活動状況を告知している。
- ⑥ 卒業生に対しては卒業後の就職活動支援や、アルバイト募集への協力、情報の問合せへの対応等を行っている。
- ⑦ 高専一貫コースを設定して高校生への職業教育を実践している。
- ⑧ 就職活動の一環として、グラフィックデザイン科は、Webポートフォリオを作成・公開し、就職活動につなげている。
- ⑨ 球技大会、日本平動物園見学、などの課外活動には担当教員、クラブ活動に対しては顧問を付け、支援活動を行っている。
- ⑩ 社会人向けの洋裁講座を実施できる環境を整えている。

今後の改善方策

<ul style="list-style-type: none"> ・企業とのリレーションレベルの向上など就職支援活動をどのように行うことが効果的か検討していく必要がある。 ・SNSを活用した卒業生とのコミュニケーションを利用し、相互の協力体制をシームレスになるよう工夫する。 ・教育費負担軽減制度が令和元年度よりスタートした。更新手続きを継続して行う。
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者が学校活動状況がわかりにくい。 ・LGBT等への対応が今後求められてゆくとおもいます。 ・保護者への学習状況を連絡するための専用サイトがHP内にあるとよいかとおもいます。もちろん費用対効果の検証は必要ですが。 ・授業以外の部分においても様々な取り組みで学校支援を行っている事がわかった。保護者はもちろん、卒業生やグループ内の高校生へのサポート等もあり充実した取り組みが行われている。 ・安心して入学できるよう学生・保護者・両者に信頼感を高めていく努力が見える。 ・学生の支援体制はしっかり整備されている。 ・卒業生の「里帰り講座」を年2～3回企画し、質問等出来る場所を提供すると学生達が安心すると思えます。

学校関係者評価平均

4

(5) 教育環境

5-1	講義室、実習室の管理は適切に行われているか	4
5-2	実習室及び講義室は学生の自習室として開放しているか	4
5-3	教育用機器備品は整備されており活用されているか	4
5-4	施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されている	4
5-5	防災に対する体制は整備されているか	4
5-6	学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
学校自己評価 平均		4

成果と課題

- ①講義室、実習室には教室担当を決めて管理し、定期的で大掃除、片付けなどのメンテナンスを行っている。
- ②すべての教室は学生に自由開放し、自習が可能な状態となっている。放課後も、月・水・金は19時、火・木は20時まで、土曜日は午前中を開放している。
- ③ミシン、製図盤、レーザー加工機などの機器は年に1～2回専門業者がメンテナンスを行い必要な修繕を実施している。
- ④教室内で劣化の進んだ壁の張替えや、傷んだブラインドの交換を行い館内の美化を推進した。
- ⑤オンライン授業に対応するための必要な機器備品を令和2年以降順次揃え、Wi-Fi環境もさらに充実させたため、どの教室でも安定してオンライン授業が実施でき、授業の精度も上がっている。
- ⑤定期的な防災訓練の実施、保存食の備蓄、常備薬の定期的補充など、防災に対する体制は整備されている。
5階には車椅子利用学生を救助できる腰掛式担架を設置している。他にもガス缶を使用して発電する発電機2台、蓄電器2台を常設しており停電時のバックアップ電源を確保している。
- ⑥職務分掌で担当者を任命し体制を整え運営している。

今後の改善方策

- ・学生数の増加に伴い、近隣に確保した日吉町教室（41人収容）はフル稼働したが、それでも足りない場合は外部施設を使うなど、適宜対応していく必要がある。
- ・従来からの就職先とのパイプを確保しつつ、インターンシップ先の新規開拓も引き続き行っていく。
- ・いざという時に教職員が発電機を実際に使えるよう定期的な訓練を実施する。
- ・築20数年が経ち、各部で経年劣化が進んでいる。常に学校を点検し必要に応じて対処する。

学校関係者 評価コメント

- ・Mac等最新データが多くてよいと思うが一般企業ではウインドウズも使っているところが多いので対策した方がよいと思います。
- ・新校舎になり、改善点や規則も変わってくると思います。生徒や我々卒業生も活用できる場として環境整備をお願いしたいです。
- ・最新の設備を導入した環境であることを積極的に発信する必要があると思います。
- ・常に学生が学びやすい環境を整えていることが理解できた。又、コロナ以後にオンラインの活用もされており充実している。
- ・施設・設備のアップデートは常に求められるが、きめ細かく対応できていた。
- ・校舎が移転したことで環境は変化したと思われる。取組に関しては評価できる。
- ・新校舎になり改善されていると思います。

学校関係者評価平均

4

(6) 学生の募集と受け入れ

6-1	入学案内には志願者が必要とする情報が掲載されているか	4
6-2	募集要項の内容は適切か	4
6-3	学生募集活動は、適正に行われているか	4
6-4	学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
6-5	学納金は妥当なものとなっているか	4
学校自己評価 平均		4

成果と課題

- ①入学案内をする学校パンフレットは毎年更新し、必要な情報を適切に掲載している。また、学校HPにおいても必要な情報を提供している。
- ② 学生募集については教職員一丸となって取り組んでおり、広報資料・募集要項の内容等は毎年更新している。学校説明会は4月から翌1月まで開催し合計10回行った。オープンキャンパスは3月から12月まで12回開催した。内容はその都度学科内で検討し、集客に努めた。
- ③新設3学科（CGデザイン科、美容科、ヘアメイク科）のオープンキャンパス・学科説明会の開催方法を工夫し、半日で体験での体験ながら、高校生への対応がしっかりできるよう配慮した。その結果、学科ごと入学者のバラつきが発生したが、定員290名に対して388名（前年度242名）の学生が集まり、全体としては定員を大幅に超える入学生数を確保することができた。
- ③プロダクトデザイン科については、高校生の需要や業界動向を踏まえた上で募集停止とした。今後は企業向けや社会人の学びなおし教育などに形を変えて検討を進めていく。
- ④オープンキャンパス、学校説明会において、必ず学習成果を見える化した資料を用意し説明した。
- ⑤他校と比較しても高すぎず、安すぎず妥当な水準を保っている。

今後の改善方策

- ・御幸町新校舎への移転を募集活動に活かす。
- ・18歳人口の減少を踏まえ、反応者の獲得につながる積極的なアクションを起こしたり、一度接触した反応者を出願に結び付けたりする適切なフォローを心掛ける。
- ・他校との違い（本校の特色、強み）を明確に打ち出していく。
- ・学内でのX（旧 Twitter）等の SNS の活用が浸透し、高校生への広がりを見せてきている。募集活動につながるよう、さらに機能させる。

学校関係者 評価コメント

- ・入学金、授業料の検討をお願いします。
- ・静岡けやきプラザの ICA ヴィジョン広告は視認性が高く効果的だと思います。
- ・新学科の充実もあり今後に期待が持てる。
- ・高校生のニーズ、保護者の理解が充分に得られるような情報発信がされている。
- ・募集・受入は適正に行われている状況。結果として出てきた数字が定員を上回ったことも評価できる。
- ・新校舎見学会、オープンキャンパス実施など静岡デザイン専門学校の特色を正確に伝えられていると思う。フラワーデザイン科に関しては日本国内では、生花、園芸共に学ぶことができる学校としてもアピールしていったほしい。

学校関係者評価平均

4

(7) 教職員組織、学校運営・管理、財務、法令等の遵守

7-1	教職員の能力、業務内容の評価を定期的実施しているか	4
7-2	組織間、各部署間の連携は適切に図られているか	4
7-3	非常時の危機対策管理に対する周知は徹底されているか	4
7-4	消防計画、学校安全計画は適切に整備し、防災訓練等は実施されているか	4
7-5	目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
7-6	事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
7-7	運営組織や意志決定機能は、規則等で明確化されているか、有効に機能しているか	4
7-8	人事、給与に関する制度は整備されているか	4
7-9	教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
7-10	教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
7-11	情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4
7-12	中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
7-13	予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
7-14	財務について会計監査が適正に行われているか	4
7-15	財務情報公開の体制整備はできているか	4
7-16	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
7-17	個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
7-18	自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
7-19	自己評価結果を公開しているか	4
7-20	ハラスメントに対する防止対応策が整備されているか	4

成果と課題

- ①職員は年度初めに目標シートを作成し、年度末に成果を自己評価する。目標シート作成時と自己評価時に上位者が面談して教職員の能力、業務内容をチェックする仕組みがある。
- ②学校法人全体を統括する理事会・評議員会は年3回、5月・9月・2月に定期的実施され、議事録は適切に作成され、管理されている。組織間の連携は、校長会及び4つの部会（進路、企画、教育、広報）と中期計画策定委員会を中心に十分な連絡会が持たれている。事務局機能として専門学校事業室が機能し、全体の連携をさらに円滑にしている。
- ③災害時の連絡網は構築されている。
- ④防災計画は年度ごと見直しを行い防災マニュアルに反映し、非常時の危機管理対策について周知徹底している。防災訓練は年1回必ず実施している。また AED は学校 1F 事務室に配置されており、全教職員が AED 講習を受講し AED 操作の訓練を行っている。
- ⑥事業計画に沿った運営方針を定め、学校運営を行っている。
- ⑦就業規則などの諸規定は整備されており、一部抜粋が規定集として全職員に配布され、またすべての規定集については電子化されており、教職員がパソコンの画面で自由に閲覧できるよう整備されている。
- ⑧人事、給与に関しての規定が整備されている。
- ⑨職務分掌の制定によって、教務・財務の意思決定がなされている。
- ⑩教育活動の成果は積極的にプレスリリースし、多くの取材にも応じている。例年40～50件ある。また、学校HP上でも情報は適宜公開している。
- ⑪情報のデジタル化が進み、業務の効率化、資源の削減が図られてきた。会議資料ではほぼ紙を使用しない。
- ⑫中長期の学校運営計画を元に収支計画を立て運営している。2024年に校舎移転ができるのも財務基盤が安定していることの表れでもある。
- ⑬次年度の当初予算・収支計画を立て法人本部で審議した上で予算執行を行っている。執行状況をみながら年3回補正を行っている。
- ⑭財務状況についての会計監査が実施され、適切に運営されていることが証明されている。
- ⑮学園の財務情報については、学校HP上に公開されており常時閲覧可能となっており、財務分析比率は適切な数値となっている。
- ⑯年2回、監事監査が行われており、法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているかのチェックがなされている。
- ⑰個人情報を使用目的等を明示したうえで収集、利用、廃棄しており適切に管理している。成績を付ける際の名簿のやり取り時にはパスワードを設定している。また、入学時に本人が希望した場合に個人が特定できる情報公開をしないようにするための要望書を提出させている。
- ⑱年度初めに必ず自己評価を行い、併せて学校関係者評価委員会を開催して意見をいただいている。前年度の振り返りを行い絶えず問題点の改善に努めている。
- ⑲自己評価結果は学校HPで公開している。
- ⑳ハラスメント委員を3名配置し、すぐに相談できるよう担当名と連絡先を掲示している。

今後の改善方策

- ・コロナ禍の影響もあり、令和2年採用以降の新人研修で AED 講習ができていなかったが、AED 講習を実施した。
- ・AED については定期的な講習を行い、非常事態に備える。
- ・学校の基幹システム（教務、広報、就職）の連携を進めて業務の効率化を図る。

<ul style="list-style-type: none"> ・学校の安全性を高めるために増設した校内の防犯カメラの効率的な運用。
<p><u>学校関係者 評価コメント</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者と先生とのつながりがあまりないので学校行事に参加しやすい環境を作してほしい。 ・ハラスメント防止に引き続き取り組んでいただきたい。 ・職員のメンタルヘルスについて外部に相談できる仕組みを整えたほうが良いのでは。 ・生徒だけではなく、そこで働く教職員へのサポート等もあり良い環境が見られます。 ・教職員が働きがいを感じられる職場環境を整えることは大切です。教育機関はブラックになりがちなので丁寧な対応も求められます。 ・各種制度は適正に整備・運用されている。従業員エンゲージメント向上に向けて今後も努力してほしい。 ・しっかり実施されていると思います。

学校関係者評価平均

4

(8) 社会貢献・地域貢献、国際交流

8-1	学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
8-2	留学生の受入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4
8-3	留学生の受入れに対して、学内での適切な体制が整備されているか	4
8-4	地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4
8-5	学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
学校自己評価 平均		4

成果と課題

- ①てんま夏祭り、クリスマスフェスタ等地域のイベントに積極的に参加し、台湾の高校生を受け入れ授業など地域貢献・国際貢献を図ってきた。中学校からの依頼によるキャリア教育、高等学校から依頼によるデザイン関連体験授業等にも対応している。他にもブラジルの漫画家のプロダクションとのコラボ授業を行い、ブラジルの文化について学ぶ機会を創出した。
- ②留学生の受入体制については、留学生担当を設け対応している。また、出入国在留管理庁への報告事項も適正に行われている。出入国在留管理庁より適正校であることの文書が届いている。
- ③分掌担当を配置し、適切に体制を整えている。
- ④社会人向けの洋裁講座を実施している。
- ⑤ボランティア等の依頼については、内容を見て案内するか否かを決定、実施のものは Teams で一斉連絡し募集案内を行ったり、校内掲示を行ったりして積極的に参加を募っている。

今後の改善方策

- ・様々な活動へ積極的に参加する学生を支援する体制を学内に整える。
- ・留学生は日本の慣習が分からないことも多いため、日常生活に関するサポート体制を充実させる。また、留学生同士が助け合える環境を用意する。

学校関係者 評価コメント

- ・街中地域とのイベント参加は良いが、オクシズ等田舎を元気にする活動も検討してほしいです。
- ・社会人向けの講座が増えるのはうれしい。小中高生などが参加できるものがあつたら小さな時からデザインに触れることができよいかと思います。
- ・日頃より発展会活動にご協力いただき感謝しております。
- ・企業とのコラボも含め地域との交流や国際交流も行われている。

- ・今まで以上に留学生を受け入れる体制を整えていくことで新たなフェーズを生み出すことができるかも。
- ・社会・地域への貢献は社会的責任と考える。取組は評価できるものになっている。
- ・年間を通して地域活動に積極的に参加している。地域から世界への発進力もつけたいですね。留学生の受入も積極的に対応して欲しい。学生達の意識が変わってくると思います。

学校関係者評価平均

4